

GUN COLLECTION'S

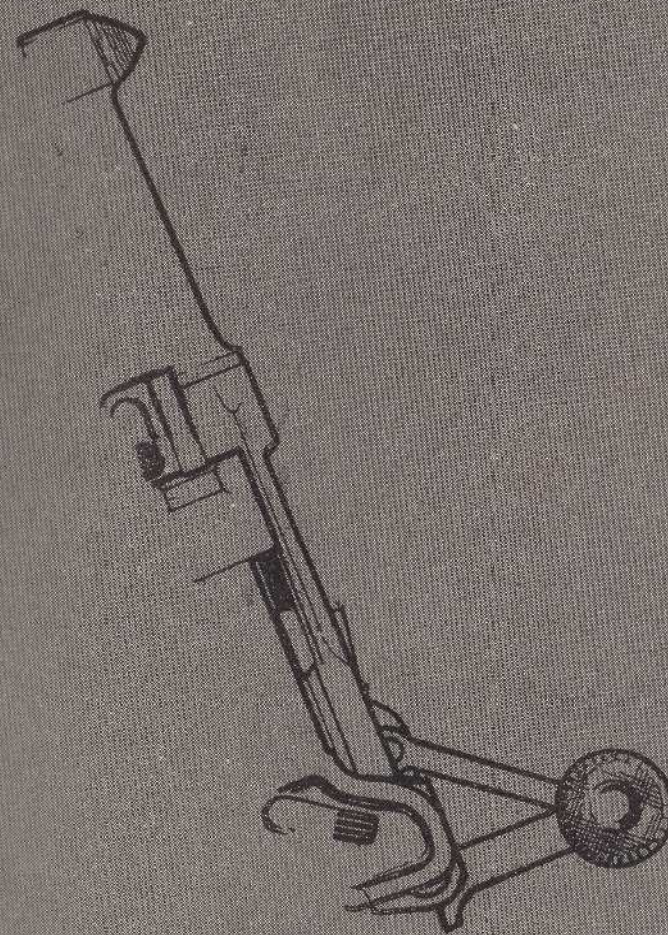
M.G.C.

BOUND TO FIT
THE FINEST
COLLECTION

3

A BULLETIN

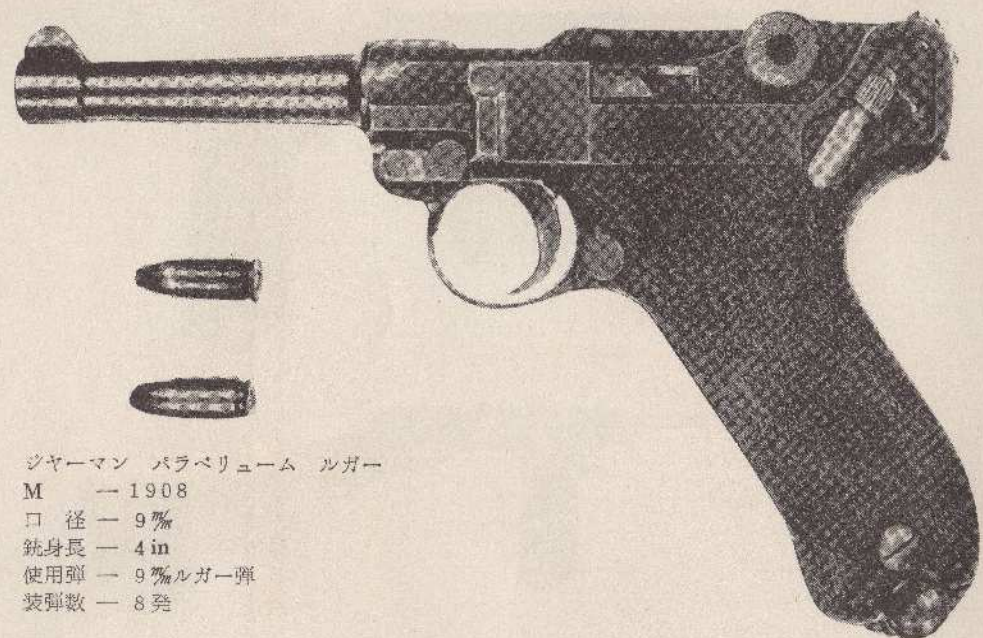
LUGER



東京都大田区萩中町147

日本モデルガンコレクション協会

特集 世界の拳銃を尋ねて [ドイツ編ルガー]



ジヤーマン パラベリウム ルガー
 M — 1908
 口径 — 9%
 銃身長 — 4 in
 使用弾 — 9%ルガー弾
 発弾数 — 8発

世に名拳銃の一つといわれるルガー180 (正確にいえばドイツ自動装填式軍用拳銃、パラベリウム・ルガー・M1908 9%は、前号のモーゼル特集で紹介したフーゴ(ルドウィック・ローウェー社でボルシャルト銃を作っていたアメリカ人技術者)の助手、ジョルジュ・ルガーによって作られ、その名をとってルガー・ピストルと名付けられた。第一次大戦中にドイツ軍で使われたのを始めとして、オランダ軍用拳銃、スイス警察用にも使用されその高性能と安定性、60年後の今日でさえ誰も代えることのできないダイナミックなスタイルから、名実共に名銃ともてはやされるようになったのである。

このルガーを知る前に、原型となつたボルシャルト銃から解説しよう。

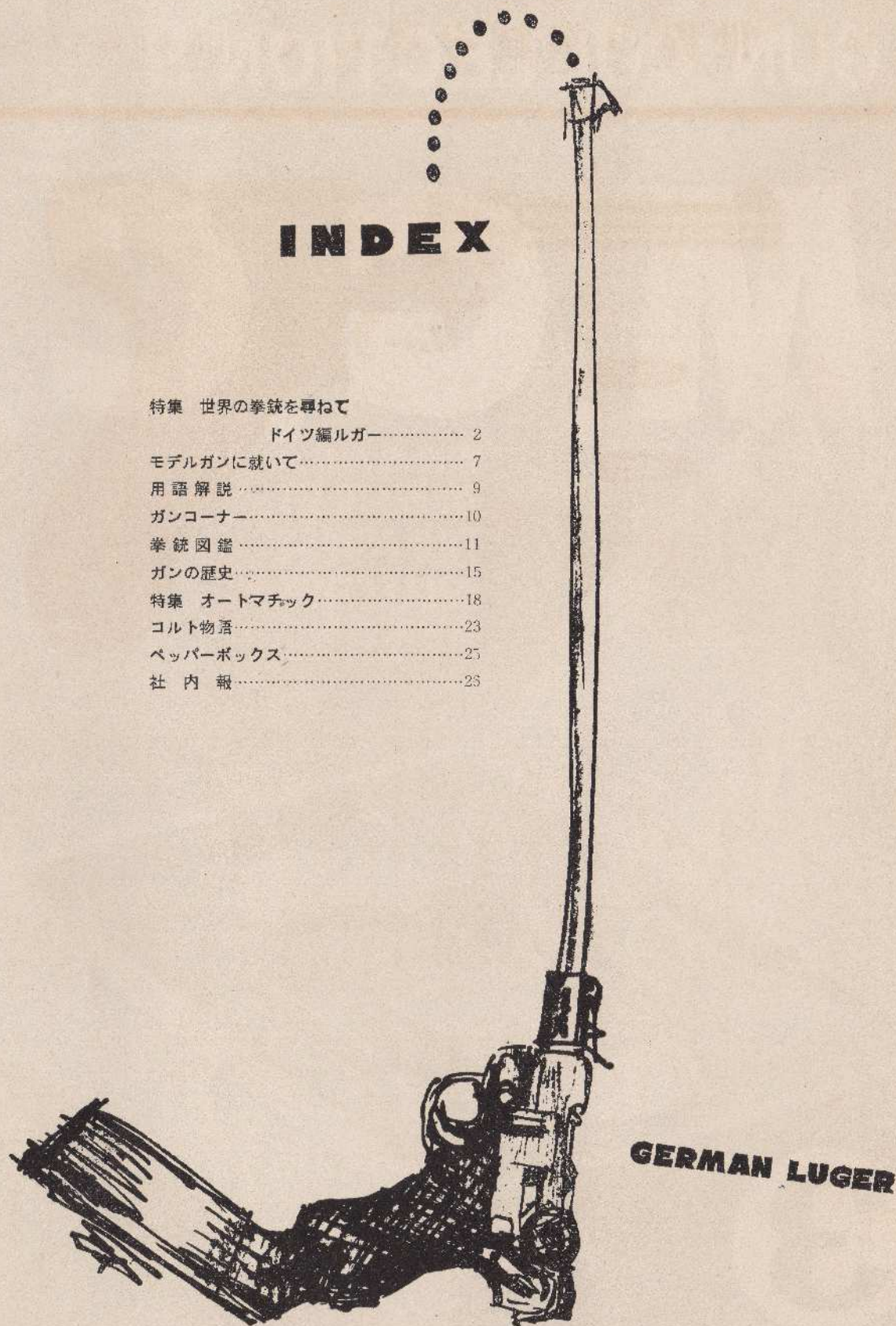
ボルシャルト銃
 この銃は1893年アメリカコネティカット州に住むフーゴ・ボルシャルトが、トグルジョイント・ロッキングシステムという銃の機構を考案し、採用したものだ。トグルジョイント・ロッキングシステムというものは(次頁参照)、人間の腕と同じ様な動きをするもので、ボルト・ロックの様に爪に依ってロックするものではない。ロックされている時はトグルジョイントの中心点が機関部と遊底をつなぐ線より下に有るため発射の瞬間にわ、遊底つながらる後退

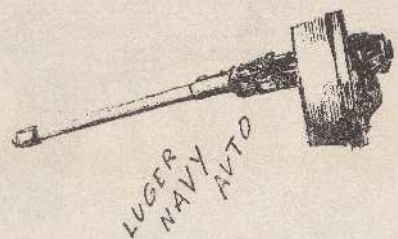
機構がしっかり止められているので遊底が開かないままガス圧に依り僅かに後退する。固定機構上部のS形のレールに依って押し上げられたB点は、腕を曲げる様子上へはね上がり遊底だけが後退するのである。この様にロックを持つたものは、ガス圧の大きな弾を使う場合に、弾頭が銃口より発射される迄に遊底が解放されるのを防止するための機構で、口径の大きなオートマチックピストルに使用されているが、このトグルジョイントロッキングシステムはボルシャルトと、ルガーだけに使われている。

しかし、このすばらしい拳銃も、当時アメリカではリヴォルバー全盛時代で、採算の取れない事をさうた彼は、この製作図面を持ってドイツに渡つた。そして、モーゼルで有名な、ルドウィック・ローウェー社が彼を技師として迎え入れ、ボルシャルト銃の製造を開始した。これはグリップの中に弾倉を持っており、弾倉を交換する事に依り、すばやく次の給弾をする事が出来た。この方式は後のオートマチックにさかんに使用されている。このボルシャルトピストルには取りはずしの出来る銃把を取り付ける事に依り、自動装填式小銃としても使用出来、この銃把と予備弾倉をケースとともに付けて売り出されていた。つまり、このボルシャルトピストルは、世界最初のオートマチックピストルとしては信頼

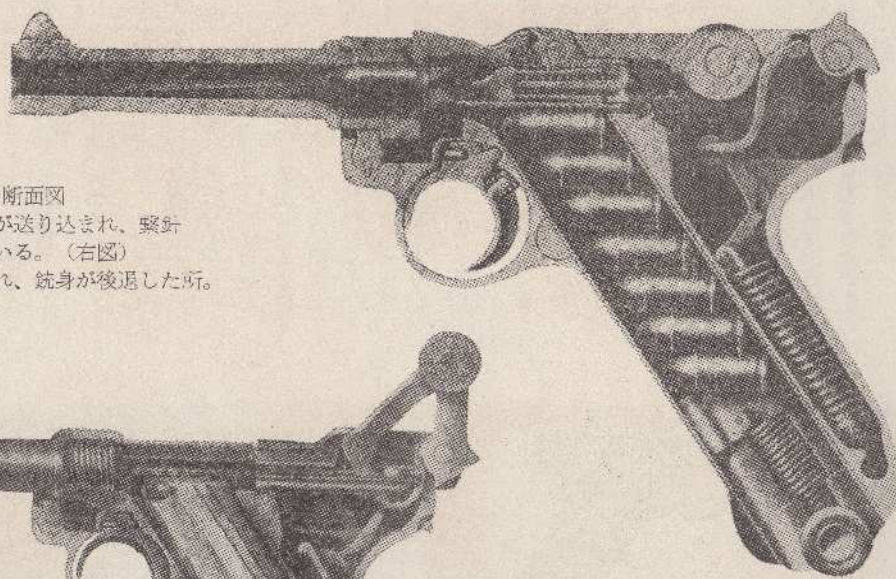
INDEX

特集 世界の拳銃を尋ねて
 ドイツ編ルガー..... 2
 モデルガンに就いて..... 7
 用語解説..... 9
 ガンコーナー..... 10
 拳銃図鑑..... 11
 ガンの歴史..... 15
 特集 オートマチック..... 18
 コルト物語..... 23
 ベッパーボックス..... 25
 社内報..... 25





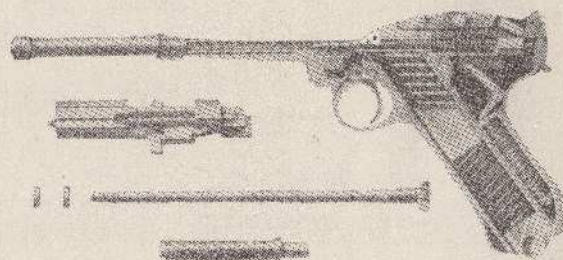
M-1908 の断面図
 薬室に実包が送り込まれ、發針
 が引かれている。(右図)
 遊底が引かれ、銃身が後退した所。
 (下図)



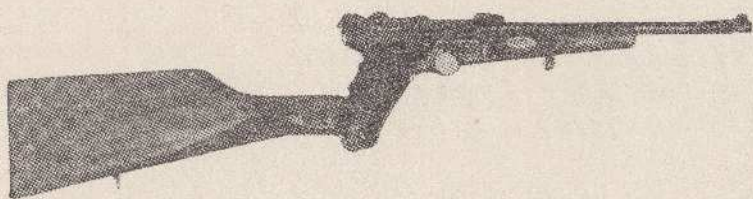
ルガーエルマ (下写真)
 0.22インチロングライフル弾用
 コンバージョンユニットを、使
 用した所。



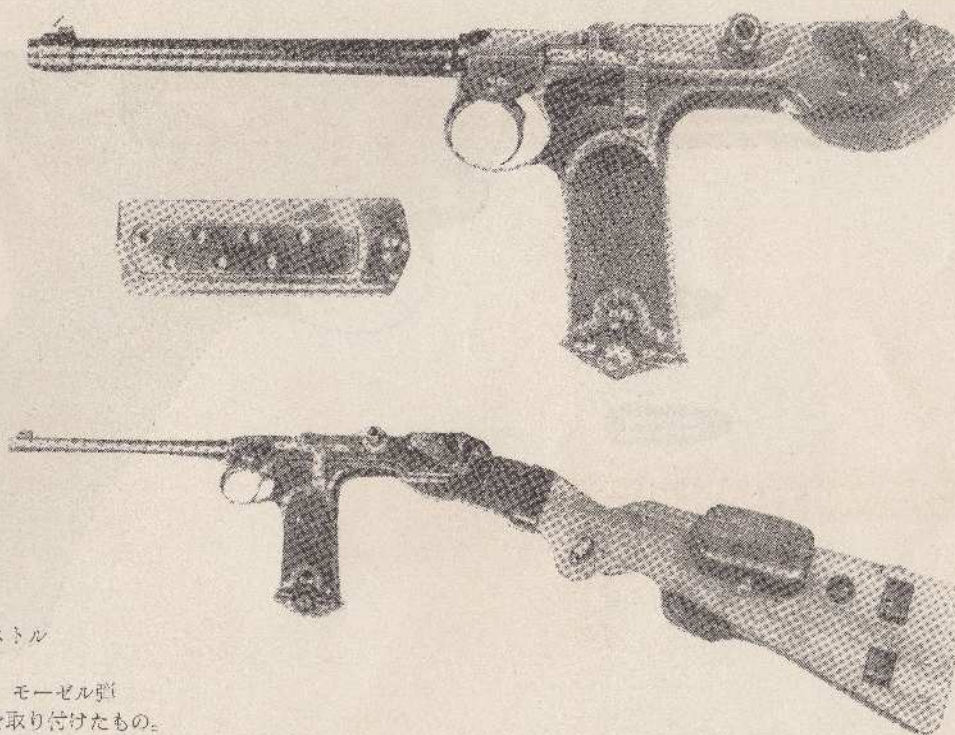
ルガー カービン (下写真)
 口径 — 7.65 %
 銃身長 — 11.4in
 使用弾 — 7.65 %ルガー弾
 装弾数 — 8発又は32発ドラムマ
 ガジン



(訂正)本文第二頁の上段二行目のルガー80
 はルガー08の間違いにつき訂正致します



GERMAN LUGER



ボルシャルト ピストル
 口径 — 7.65 %
 使用弾 — 7.65 % モーゼル弾
 下の写真は、銃把を取り付けたもの。

の出るものであり、7・65%リ
 ムレス弾を使用した。当時としては
 すばらしいピストルだった。又ボル
 シャルトはルガーピストルの先導者
 とも言えよう。

ルガー1900
 このルガーは、当時ボルシャルト
 の助手をしていたジョルジュ・ルガ
 ーが作ったもので、トグルジョイン
 ト・ロッキングシステムを採用した
 本格的なオートマチックピストル。
 口径は7・65%、銃身長は4・34
 インチで、機関部の右側に安全止め
 があり、グリップセイフティ(把
 式安全装置)が付いていた。

M-1902
 口径は9%、銃身長4インチであ
 るほかは、m-1900と何等変る
 ところは無い。

M-1904
 口径は9%、銃身長6インチ、安
 全装置はm-1900と同じである
 が、これにはアジャスタブルリアー
 サイト(調整式照門)が付いており
 取り外し可能な木製銃把と、二つの
 予備弾倉と反撃ホスターとが一語に
 売られた。ドイツ海軍ではこれを正
 式採用し、初期のものはグリップセ
 ーフティがあったが、後にはこれ
 が取り外された。また正式拳銃であ
 るためD・W・M(ドイツ兵器廠)
 で製造された。

M-1900-06
 // 1902-06
 // 1904-06

これ等の三種は、1900と19
 04のレコイルスプリング(復座バ
 ネ)かりフスプリング(板バネ)
 であるのに対して、コイルスプリン
 グが使用されており、グリップの左
 側にカートリッジインジケータ
 (実包残量指示器)が付いているほ
 かは、前者と同じである。

M-1908
 これが世界にその名を轟かしたル
 ガー08である。口径9%、銃身長4
 インチで、レコイルスプリングはコ
 イルスプリングを採用し、グリップ
 セーフティはなく、ドイツ陸軍用
 にまたもう一つ08には、銃身長8
 インチで、アジャスタブルサイトを
 持ったものは、海軍用に供され、あ
 の有名なZZポルト用として使用
 され、ロングモデルと呼ばれていた。
 この二つには、薬室上部にイーグル
 マーク(ドイツの国章)が彫られ、こ
 のナンパーは、一連の純きナンパー
 とは別に、一月ごとに代えられる日
 付ナンパーを打ちその後に月を知ら
 せる頭文字が彫られていた。この拳
 銃は他の型式の様に一販市場には出
 回らず、ドイツ軍用のみに使用され
 その精度並びに性能はシャーマンル
 ガー中、最優秀品である。

ルガーカービン
 これは、M-1904のレシーバ
 ー(機関部)を使用し、銃身長11.4
 インチで、口径は7・65%、アジ
 ャスタブルサイトを持ち、長い銃身
 の下に木床を取り付け、自由に取



ルガー ネイビー
M-1908 口径9mm
銃身長8in 装弾数32発ドラムマガジン使用

のもので口径をかえたものはやっかいな故障を起す事が多い。(中には口径の5インチで銃身長5インチ、\$100と言った様なひどいものもあるらしい)しかし中にはルガーカービン等も売られて高性能を発揮している。とりわけ、22インチのロングライフル弾を使用するルガーエルマは最初から22径用に作られたものと、スタンダードのM及びM200を、マガジン、エジエクター、ブリーチブロック・インサイドバル・バレルスリーブ・ロックナイト等のユニッ

トパーツを使用することに依って22径ロングライフル弾を撃つ事が出来るなど、すぐれた特徴をもっている。一方、ヨーロッパでは1918年に第一次世界大戦が終結し、ベルサイユ条約が結ばれ、口径9mm径より大きく22より長い銃身長の手銃の製造を禁止した。そのため、オーベンドルフのモーゼル工場(一次大戦後、D・W・Mを改取した)は、9mm径つまり9mmの口径で、9mmの銃身長を製造し、スイスだけに輸出した。1933年を以て12mmの銃身

長のスベシャルサーピスモデルは、モーゼルルガーとしてスイスへ輸出された。しかしドイツ政府はベルサイユ条約に対して銃身長を計る場合にライフル(銃)のみの長さを計り薬室の長さを計算しない計算方法を提案しこれを可決させ、少しでも有効銃身長を長くする方法を考へ出した。以後今日迄銃身長を計る場合にはこの方法が使われている。このすばらしいルガーを本格的に生産したのは、D・W・Mつまりドイツ武器兵器工廠で、カールスルーエにあるドイツ金属工場のカートリッジ(薬莖)製造工場と、ルドウィックローウェー社、及びサンズオブベルリンの武器工場との結合、云い換えれば国内の武器製造の最高の技術を集結したものであった。ベルリンでは銃をカールスルーエ工場では弾を、と

特集 世界の拳銃を尋ねて (ドイツ編ルサー) 世界拳銃図鑑詳細 (アメリカ・ガンコレク ション協会提供) ガンの歴史 (第四回) コルト物語 (最終回) 有名コルトライター訪問 モデルガン紹介 映画・テレビ欄 コングレッションガンについて (コルト・ルガー) 用語の解説 その他解り易い解説 発行予定 六月下旬

次号予告

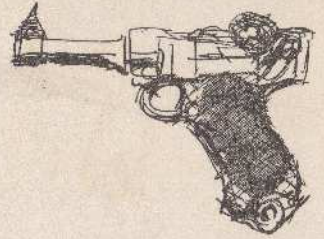
銃砲刀剣類所持取締法の解説 その二

法令に基き職務のため拳銃の所持が認められている者 (職名) (根拠となる法規)

- 警察官 警察法 第六七条
- 皇宮護衛官 警察法 第六九条
- 自衛官 自衛隊法 第八七条
- 海上保安官 海上保安法 第九九条
- 監獄官吏 司法省令第三一〇号
- 麻薬取締官 麻薬取締法 第五四條
- 税関職員 関税法 第一〇四條
- 出入国管理官 出入国管理令 六一條
- 鉄道公安官 鉄道公安職員職務に関する法律 第六條

つまり貴方(民間人)は絶対に本物を持つ事は出来ません。

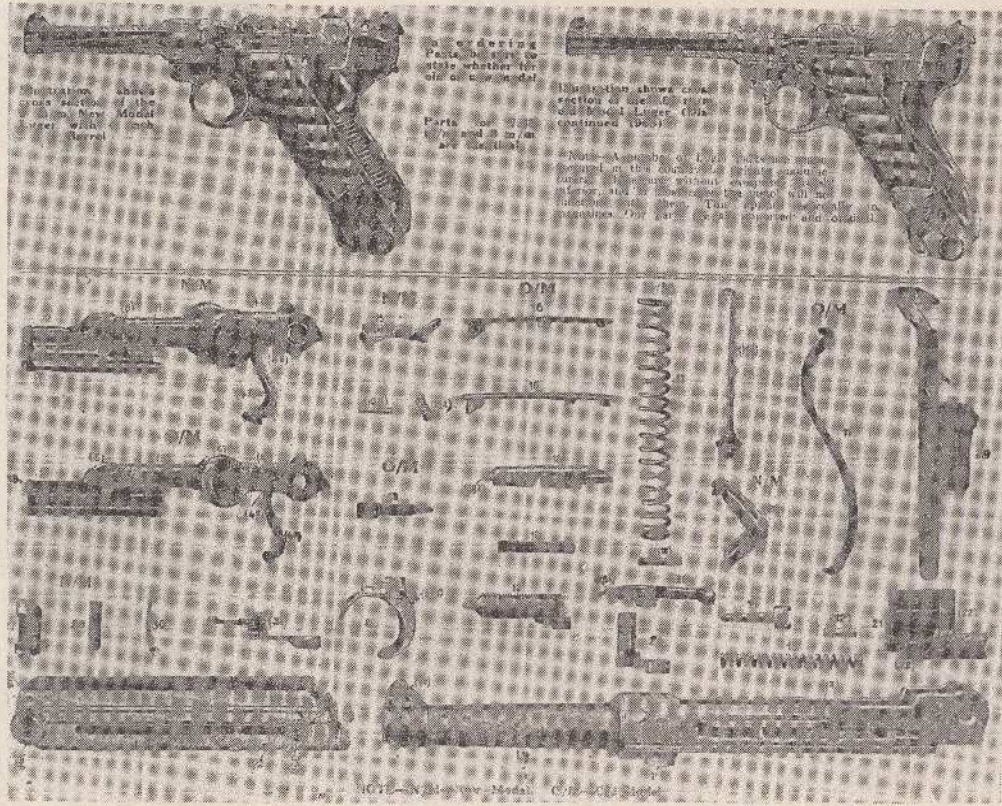
LUGER



はずし可能な銃把をも持っている。使用弾はスタンダードのルガー弾より竹だけ火薬のチャージ量が多い、先シボリのリムレス弾を使用し、薬莖を黒く着色して他の7.65mmルガー弾と区別している。その性能はすばらしく初速は2000フィート、貫通力は50メートルの距離で松板10センチ以上と言われている。

ウィッカーズルガー

これは、イギリスのウィッカーズ・アームストロング武器製造会社が1926年にオランダ政府より9000丁の注文を受け、ドイツの技術と工作機械を使って製造したものである。M1902-106をモデルとして、口径7.61mm、銃身長4インチ、トグルジョイントの上にVICKERS LTD.の彫り込まれている。このうち、約3000丁ばかりを第二次大戦中に日本軍がオランダ東インド部隊より戦利品として分捕り、薬室上部に十六菊の紋章を打ち、日本軍将校用として使用したが、1945年8月15日、つまり終戦と同時にアメリカ軍に取り上げられてしまった。まったくおもしろい事をしたものだがところが国が変われば考え方も違ったものでアメリカのW・H・B・ミスと言う人が書いた拳銃専門書には「オランダ軍より捕獲されたウィッカーズルガーを、誇り高きアメリカ軍が日本軍の手より解放してやった」と書いてあった。



上図断面の左は、M-1900-06~M1904-06と、M-1908で、レコイルスプリングにコイルスプリングを使用している。右はM-1900~M1904の断面で、レコイルスプリングにリーフスプリングを使用している。部品図解中、N/Mはニューモデル、O/Mはオールドモデル。

まるでどこかの解放論みたいだが大戦後、アメリカ市場に撤回したルガーは、パラベリウムモデル(下

イツ語で軍用の意)を調整したもので、銃身長はいろいろある。アメリカで加工した工場と言うのはけっし

て良い工場ではなく、しばしば質の良くないルガーが発見される。それらの中でも、8インチ以上の銃身長

モデルガンについて……



マテル スナップノーズ 38

今回から、現在当協会で頒布しているコングレクションガンを一つずつとりあげて、その各々の長所、短所を検討し、会員の皆さんと一緒に研究していきたいと思えます。

現在輸入され、市販されている、玩具としてのコングレクションガンは非常に精巧に作られ、特に米國マテル社の製品は種類も十数種を越え、機構もシングルアクション、ダブルアクション、いづれも弾の出る複雑なものを作っています。この社の製品は仕上りもすばらしくきれいで、他とは格段の差がありますからガンマ

ニアにとって、最も魅力に富んだものといえるでしょう。因産でもこうしたものが手に入るようになればよいのですが、日本では実物を参照することができないためか、あくまでもミニチュアを主にせざるを得ないのは残念なことです。今後、一日も早く、大人の鑑賞にたえ得るものを作るのが因産メーカーの大きな課題でしょう。

それはさておき、まず第一回目として、現在人気の中心になっている「スナップノーズ38」と、唯一のシングルアクション、コングレクション「クック」について、その特色、欠点をとりあげてみましょう。

「スナップノーズ」、ガンの中の交りだねといえ、まずこの型が最右翼、銃身の短いところに実に愛キョウがあり、親しみ易いモデルです。全体のほとんど半分がグリップ

といつてよいほどですから、その部分がプラスチックである点、ともすれば安っぽく見えがちですが、色彩が実によく、この種の拳銃らしく塗装されているのが最大の長所です。そのうえ銃身が短いので、ガンのつぎ目をさらけ出していないのも利点といえるでしょう。

ただ輪郭がプラスチック製で極端に軽く作られているのがマニアにとってはちょっと物足りないのが、これが、これは万一不心得な人がいて火薬を入れて弾をばらばらと破れてしまふという配慮からですから仕方のないことです。その代りにバネで、実際に弾が飛ばようになってくるのには共通したことです。しかも輪郭がプラスチックでできているというところは、分解して初めてわかるほどどうまく作ってあります。少しほめすぎたようですが、マテル社製品の神経のゆきとどいた点はほぼ完璧で、玩具としては出来すぎといわれるくらいです。すくなくともほめすぎではないでしょう。よくガンに理解のない人は拳銃の玩具を非常に危険視しますが、このような完全なものが出来たことは大いにPRされてよいのではないのでしょうか。

さて、この銃を分解してみても一番目につくのは輪郭をまわすおくりが二コあることです。普通のコングレクションガンは回すだけのツメ一つです

が、この「スナップノーズ」にはさらに輪郭をビタリと固定するもう一つのツメがついているのです。さらにスプリングが全部コイルスプリングですから無理が少なく、とてもスムーズに動くうえにこれに比べても長所の一つです。

だが短所もありません。その一つは長所であるコイルスプリングは、反面もし故障して分解した場合、再び組み立てるのが非常にやっかいだという欠点にもなっています。それに全体がネジ止めではなくカシメであるので、分解したらビス止めしないといふ復元出来ません。まず分解しない方が無難なのです。さてそこで、このモデルをさらによりよくする工夫にふれてみましょう。それにはグリップをプラスチックの代りに木製のカスタムにする

が、この「スナップノーズ」にはさらに輪郭をビタリと固定するもう一つのツメがついているのです。さらにスプリングが全部コイルスプリングですから無理が少なく、とてもスムーズに動くうえにこれに比べても長所の一つです。

だが短所もありません。その一つは長所であるコイルスプリングは、反面もし故障して分解した場合、再び組み立てるのが非常にやっかいだという欠点にもなっています。それに全体がネジ止めではなくカシメであるので、分解したらビス止めしないといふ復元出来ません。まず分解しない方が無難なのです。さてそこで、このモデルをさらによりよくする工夫にふれてみましょう。それにはグリップをプラスチックの代りに木製のカスタムにする

カスタムというのはご存知とは思いますが洋服でいうオーダーメイドのようなものです。つまり普通拳銃のオーダードックスなスタイルではグリップが凹みの少ない棒状になっていますが、これを最も自分の手に合った、握りやすい型にします。

大体外國の拳銃のグリップは、日本人には多少大きいのです。過去に日本で作られた南部式にしても、握り易いようにグリップを細くしてありました。そのために弾の寸法をつめたほどでした。グリップの大きすぎるのは、特に実戦の時には扱いに

くいものです。そこで戦後十数年を経て実戦用の改良を必要としない今日では、拳銃の変化のほとんどが、このカスタムグリップ唯一点に止まりましたといつてもさしつかえありません。スナップノーズのように銃身が短く発射の反動の強い銃ではことさらに、手に合ったカスタムが不可欠といえるでしょう。

過日配布済のカタログ一頁にあるスナップノーズのグリップは、当協会で製作した木製カスタムです。こうしたカスタムを自製することは、今まで述べたような拳銃の流行にマッチするうえ、プラスチックのグリップよりはるかに実物に近い感じを出せる点で、是非お薦めしたいことです。

次に「シングルシックス」に移りましょう。歴史的にはシングルアクションはその後にダブルアクションが出来たにもかかわらず、依然としてすたらない理由は、撃鉄を手でおこしてから引金をひくために銃のブレが少なく従ってホライが正確であるという実際使用上の利点もさることながら、西部劇に対する根強い憧れと、撃鉄を起す時の何ともいえない手ごたえが多分に働いていることは見逃せません。このシングルシックスの



マテル シングル レックス ヨヴォルバー (ニューマテル)

原型はマテル社の「ニューファナ45」シングルシックスですがこの手ごたえは充分にタン納できます。それに特にわれわれの興味をそそるのは今までの玩具の観念をこえた三十センチに近い実物大という点です。仕上げも大きい割にすて丁寧です。他にも「エシエクター」を操作することによって薬莖をハイ出すこともでき、少し手を加えれば「アメリカン・ルガー・ブラックホーク」や「コルト・ピースメーカー」にも改造出来るのは魅力です。だがこれにも欠点はあります。カタログでもおわかりと思いますが、撃鉄の型が何ともガマン出来ません。これはルガーのようにけずらなければならぬし、マークをほり込んで全体のバランスを整えることも必要でしょう。

しかし、それ以上に私たちがガツカリさせるのは、あのニッケルメッキのピカピカなところです。構造が実によく出来ているにもかかわらず、いかにもオモチャ然としていてマニアの神経を無視しています。

そこで当協会でこれをスチール・ブルーに着色してみたところ、まったく見違えるばかりの、満足のお持ちの方は、是非塗装をお薦めしますが、よくラッカーをふきつけたところ輪郭やグリップのプラスチック部分がイカれてしまったというお便りをいただきますが、ラッカーの

液がプラスチックを溶かしますから絶対に厳禁です。また樹脂塗料ですとプラスチックにはのりも金属部分にはのらないのです。

ここで少しPRめいて恐縮ですが、当協会の場合は常に着色の研究を重ねており輸入した銃用塗料に特殊塗料を混ぜて使用しています。色の配合についても「シングルシックス」の場合を例にとりますと、グリップは黒、撃鉄と引金は着色せず、他はスチールブルーとするなど、充分留意し、絶対の自信をもっております。

またこのような理由から、当協会の製品が市販のものより割高だのご批判をいただくことがありますが、天然色のカタログでも出せばわかっていただけたらと思います。残念ながら黒白版では、苦心のスチールブルーと、ピカピカのニッケルメッキの区別がつかかえるのです。もし会員の中にニッケルメッキの品(当協会では、これらは大人のコレクションの対象から外しております)の塗装を御希望の方がおりましたら送料共七〇円でお引受け致します。

なおその場合、ペーパーやすりでガンの継ぎ目をけずってお送り下さい。必ず見違えるようになりませう。

なお改号には、最近市販され始めた「コルトスーパーストマチック」その他の特徴に欠点を解説してみましよう。

●オート・ローディング（自動装填式）

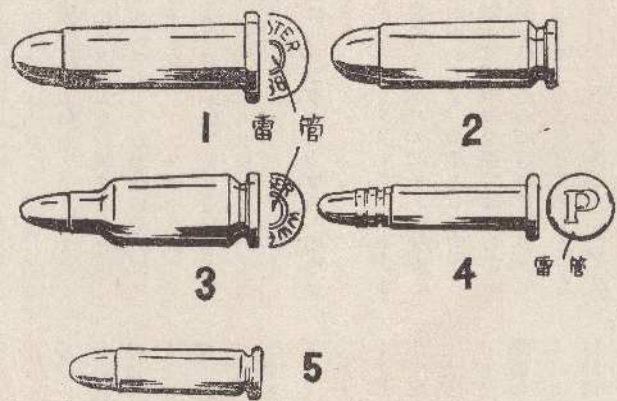
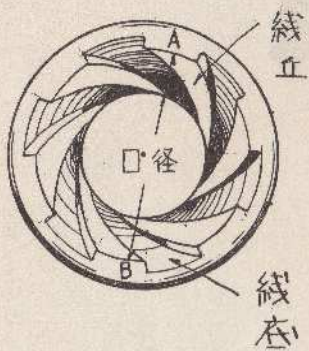
手で装填し、第一発を発射すると発射したカートリッジ・ケースが排出され、次のカートリッジがマガジンから装填され、ハンマーがコックされ、発射準備のできる銃の意である。引金にかける力は、弾丸を発射する毎に、疲かなければならない。空ケースの排出と、新カートリッジの装填は、ガス圧、反発力、復座バネ作用によってなされる。

一般にオートマチックと同義に呼ばれているがこれは間違っている。●ボルト（遊艇）

円筒形か、滑円筒形の金属製プロツクのごとで、発射のため前方に押され、ロックされ（又は、スプリングで閉鎖した位置で支えられ）発射の終了カートリッジ・ケースを蹴出し、次のカートリッジの給弾ができるよう、後退する様に設計されている。ソーパー（機関部）の中で前進、後退することによって、解放、閉鎖するものである。

●キヤリバー（口径）

小火器類の口径をあらわすには、球形の弾丸を使う先頭式や、霰弾銃など、滑腔銃身と呼ばれるもののように、ライフル（腔銃）がなく、その内径が口径を示すものと、拳銃や小銃の様に銃腔内に腔線を切った、つまりライフルリングされた（小銃をライフルと呼ぶのはこれから来ている）ものがある。これの口径線は



- 1. リヴォルバー センターファイヤー弾
2. オートマチック センターファイヤー リムレス弾
3. 先絞リ オートマチック リムレス弾
4. ロングライフル リムファイヤー弾
5. オートマチック ショート リムファイヤー弾

丘間、つまり銃身の山と山との直径をもって口径を示すが、この径をあらわす単位には次の三つの表現法がある。
一、ゲージ番号を用いるもの
#40、#36、#30、#28、#12（12番と読む）とは、等径量の鉛球弾が12個で1ポンドである場合の球径と等しい口径を持つものを示す。
二、インチ単位を用いるもの
これは、通常小銃や拳銃等の口径をあらわすもので、口径25、38、45と言ふ様に、つまり口径38とは、100/38インチ、即ち0・100/38インチを示すものである。

三、ミリ単位を用いるもの
これは、アメリカ・イギリス等で使用されるインチ単位に対して、ヨーロッパで使われ、5.56、7.62、9.02と言ふ様に口径そのものを表わす。

口径はこの様に銃腔の直径を表わすだけではなくて、弾道学的には、もの寸法を示すのにも使われる。例えば「この弾丸は3キヤリバーの長さがある」といえば、その弾丸の長さは、直径の3倍あることを示す。また、砲術用語としては、キヤリバーという言葉は銃身長を長さで示し、45口径といえば、その口径の45倍の銃身のものを示す。そこで単に口径45、または、0・45インチ・45径などというように表わさなければならぬ。これは、映画、小説等で、すでに存知だらう。

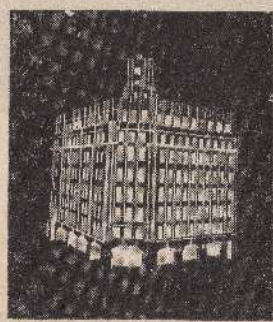
●リムレス弾

これは、無起線、つまり上図リヴォルバー用弾の様に、リムが外側に突出しておらず、薬莖の周りに溝が切られていて、これに抽筒子のツメが掛り、薬莖を引き出すのである。つまり、オートマチックの場合は、弾倉に薬莖を突き重ねるようにして装填して行くため、リムが出ていないと、弾が平行して送らなかつたり、薬室へ送り込まれる時に、弾倉上部のツメに引っ掛つたりする。またこれはオートマチック専用弾であるが、ハーフムンクリップを使うことに依り、リヴォルバーにも使用出来る。

MGC

銀座進出

かねてから、東京の中心地へ進出の構想を抱いておりましたが、この度、阪急デパート銀座数寄屋橋店に、当MGC協会ガンコーナーを開設することになりました。時期といたしましては、会員数が、一定に達したとは云え会員相互の連絡とか、会費のもの実質的向上について、未だ充分なる検討を要する段階でありますから、早尚の感は免れません。



その他新しい企画を盛りこんだ異色あるガンコーナーといたすつもりです。良アイデアがありま

したらMGC協会企画部宛お知らせください。なお阪急ガンコーナーは次のような方たちで運営されます。

一、系統的な知識

ガンの本質を知ることがコレクターとして先ず第一の条件です。

初歩から一歩一歩知識を積み重ねていくことは複雑な要素を持ったガンを正しく理解する上には是非必要なことです。

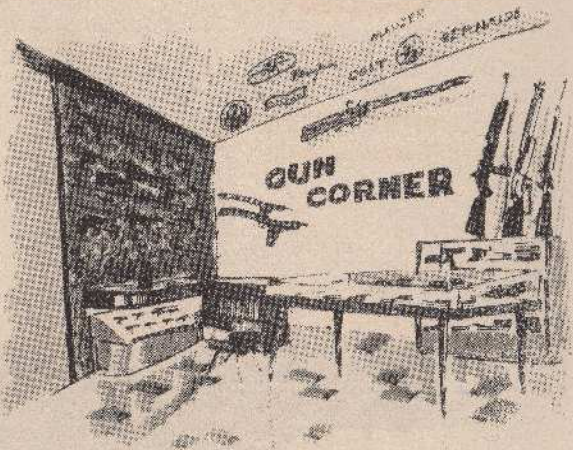
このため、ガンコーナーには、ガンに関するあらゆる資料に基づいた基礎的な解説等を取り揃えていく所存です。

一、鑑賞用コレクションガン展示

玩具より、歩出た、本格的モデルガン数十種を、ガンコーナー壁面、棚に、データを付して展示いたします。写真では、当会独自のステールブルーの感じが出ませんがここでは、その点良くお判りになると思えます。展示品は別売いたしてありません。

一、特色あるミニチュア

輸入、国産品を問わず、秀れたミニチュアの数々を、当協会の推薦にてガンコーナーで即売いたします。



（六月下旬予定）現在兼送中ですが、会員の中に、異色あるミニチュアをお持ちの方は、何卒お教えください。

その他

このガンコーナーには、特製ホルスターを初め、ガンの付属品並びにアクセサリを、併置してこのコーナーを意義あるものにしたいと思えます。特に世界代表ガンのスケッチを、ご希望の方には、一定の日に、お手荷の何れの物にでも、描いて差し上げます。

本邦最初!!

“ガンの全て”の決定版

MGC編

最近、ガンに関する二、三の連載本が出ておりますが、未だ完全なものとは云えません。現在日本のガンブームを形成し、今後マニアたんとする人々は、先ずガンの正しい知識を体系的に理解しなければなりません。その点興味本位のものでなくガンの本質にふれた完全なもの出現が望まれる次第です。本書はあらゆる見地から検討してこれに堪えるものなしとの確信のもとに編纂いたしました。必ず、授業の期ご待たせようものと自信をもってお薦めいたします。内容は、ガンの起源より今刊に至るまでの要悉他、迫力ある写真と、詳細な解説をわかり易く折りこんで、全五〇〇頁に余る決定版といえます。発行は七月下旬で、現在企画編集等はこれに全力を傾注しております。乞、御期待!!

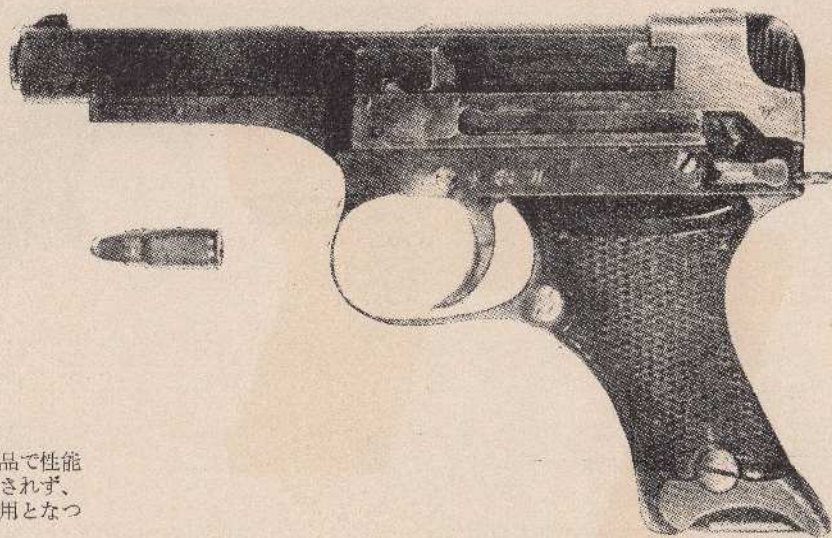
お知らせ

六月分会費未納の方は至急お納めください。未納の方には次号会報・カタログ送付いたしませんから予めご了承下さい。

ワルナー
 M - 4, 1910
 口径 - 0.32 in
 銃身長 - 3 in
 装弾数 - 8 発
 D.W.M. で1910年に作られた試作品。



二十六年式軍用拳銃
 M - 南部 二十六年式
 口径 - 9 mm
 銃身長 - 4.7 in
 装弾数 - 6 発 タブルアクション
 明治26年に日本で初めて作られた軍用リボルバー



九十四年式拳銃
 M - 南部九四式
 口径 - 8 mm
 装弾数 - 5 発
 日本最後の軍用拳銃、鋳造品で性能も外観も悪く、あまり歓迎されず、後に戦車兵と航空兵の自決用となった最低級品。

拳銃図鑑

1

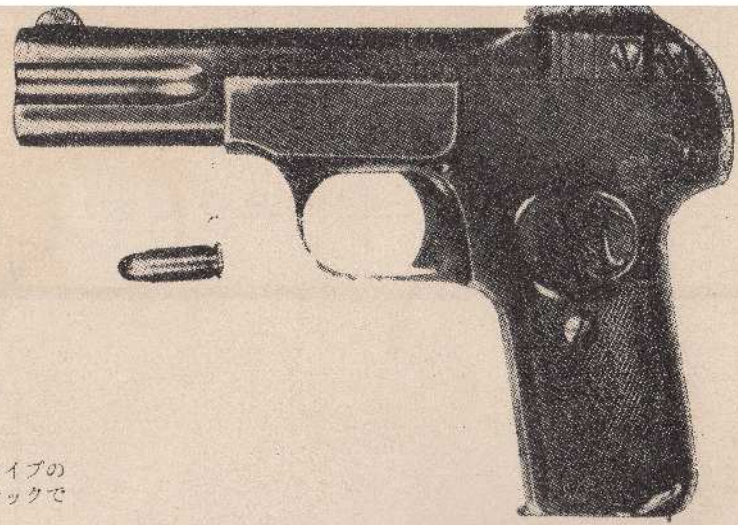
第一回は世界の拳銃より
 変り種を集めてみました。



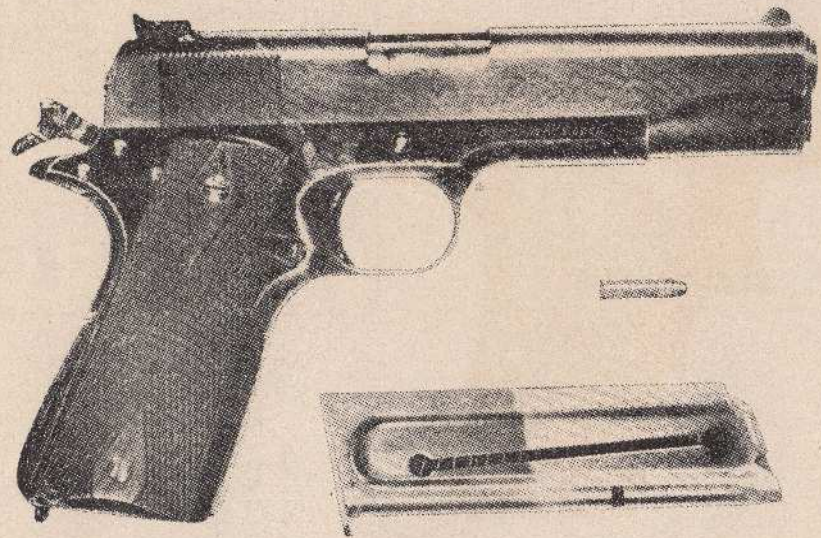
オルトギー
 口径 - 0.32 in
 銃身長 - 4 in
 装弾数 - 7 発



スチーヤー
 M - 1908
 口径 - 0.32 in
 銃身長 - 3.5 in
 装弾数 - 8 発



FN ブローニング
M — 1900
口径 — 0.32 in
銃身長 — 4 in
装弾数 — 6発
ブローニングが作ったブローバックタイプの
もので、初期のものはフルオートマチックで
あつたが後に改良された。



コルト エーズサービス
M — 22, 45
口径 — 0.22 in
銃身長 — 5 in
装弾数 — 8発
これは、コルトのガバメントシリ
ーズのデザインを使ったもので、
0.22インチのロングライフル弾を使
用するコンバージョンタイプ



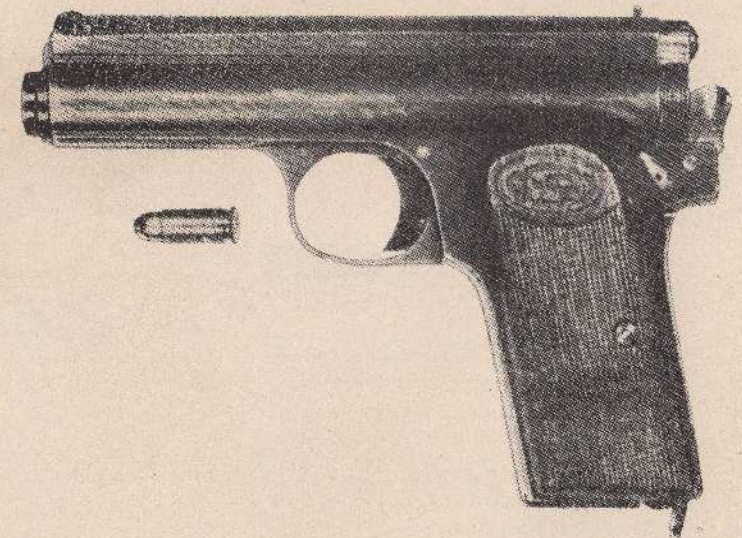
コルト スポーディング
M — 1900
口径 — 0.38 in
銃身長 — 6 in
装弾数 — 7発
これは、ブローニングロングのバテ
ントを使ったもので、ガバメントシリ
ーズの原型と
なったもの。



スミス アンド ウェズソン
口径 — 0.32 in
銃身長 — 3.5 in
装弾数 — 7発



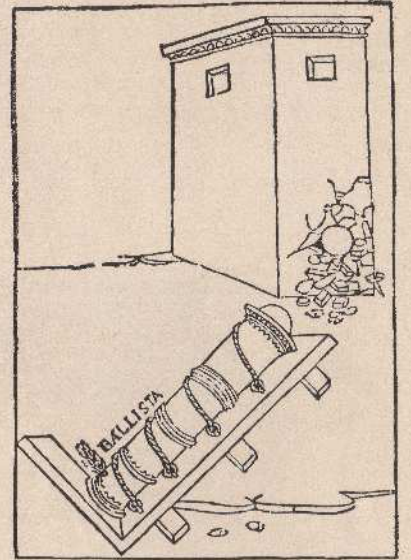
スミス アンド ウェズソン
口径 — 0.35 in
銃身長 — 3 in
装弾数 — 7発



フォーマー
M — STOP
口径 — 0.32 in
銃身長 — 3.7 $\frac{1}{8}$ in
装弾数 — 8発
フル(ロング)レコイル

ガンの歴史

(第三回・銃の起源)



パイプオルガン型の初期の連発銃



セント・レオナルド寺院の有名な壁画

キヤノン砲の変型の一つで石を打出す古代兵器

前回は、ガンの起源の直接の原動力になっていく火薬の発達について述べてきましたが、今回は、いよいよ、ガンそのものの歴史に入っていきます。

ヨーロッパやアラビアの各所で火薬の実験が行なわれていた間に、その爆発力が、実験室の天井を打ち破ったり、僧侶の腕をぶっ飛ばしたりともかく、今迄、知られなかった大変な代物だという事がわかってくるにつれて、火薬を、攻撃の武器に利用する工夫がなされるようになったのは当然の事といえます。

これが、先ず最初に実ったのは、西暦千二百年代のことでした。当時の火器は、丁度、底に小穴のあいた古バケツのような形をしており、この中に、火薬をつめて、上部に単発弾か、散弾をつめ、底部の小穴に、熱した鉄棒か、石炭を突きこんで発射させていました。こうした大砲の実際の威力は、前回示した石投器よりは劣っていましたが、発射の簡単さ、発射時の砲煙、こら音、火花などによる威嚇性は、武器として十分使えるものでした。ここで、ガンの起源に因んで「ガン」という言葉の起りについて触れてみましょう。

とは、いっても、実際のところ、「ガン」の語の起源は、未だ明確ではないのですが……

一三三〇年頃のウインザー城の記録の中に、ラテン語で、*una magna balista de cornu guae vocatur*

Domina Gunhilda (ガンヒルダという女性の名前を持った大砲) というのがでてきます。以前から、大砲に、女性の名前を愛称としてつける習慣があったのですが、丁度、このガンヒルダの *gun* も *hilda* も戦争を意味する語であった事などから、*gun* (ガン) が鉄砲の意味を持つようになったという説もあります。「ガン」の語のおこりがどうであるかと、とにかく、十四世紀には各地で、いろいろ変わった型の火砲が現われています。

パイプオルガンを横倒しにしたような大砲 (図参照) とか、円盤上に放射上に並んでいて、どこからでも攻めてこい、とかまえていた大砲 (図参照) などがヨーロッパ全域にわたって発展していった。

しかし、いままで話してきた武器は、砲台や、砲車に積まれた大砲砲でとても一人の射手の手におえるものではなかったのです。これが次第に、小型砲に移ってくる過程は、シエナにあるセント・レオナルド僧院 (一三四〇〜一四三三) の壁画に描かれており、この壁画には、長さ約一メートルの銃をもって、発射している兵士の姿が描かれています。これは、多分、現在残っている最も古いハンド・キヤノンではないでしょうか。ハンド・キヤノンの機構は、真直な鉄製チューブの端が閉じられ、銃身の端部に近いところに、点火口が開いて居り、銃身は、支えの為に、木製

シャフトにとりつけられ、弾丸は、鉛、真鍮、鉄、青銅製のものでした。発射時には、近くに設置された石炭鉢から火をとって、点火繩か、たいまつか、白熱炭を点火口に突込んで発射してました。その構えはわきの下に、ハンド・キヤノンをかかえ、一方の手で点火繩を扱っていたようです。

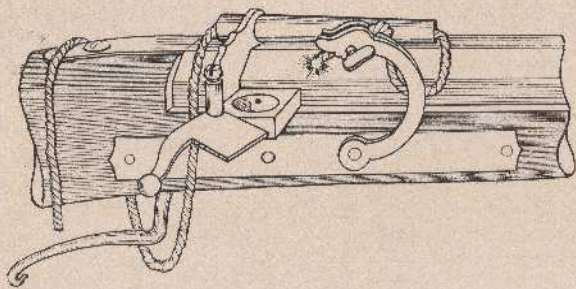
ところが、このハンド・キヤノンは、片手で支えて発射した為、正確な照準は難しく、点火手と、照準手の二人がかりで、銃を扱うような形も現われたのですが、これでは、どうにも不便な点が多く、次に現われるマッチ・ロックによって、この点が一挙に、解決される事になったのです。

こうした、もっとも原始的な型のマッチ・ロックは、S型の鉄製の腕をもった。(軸回転する) ハンド・キヤノンと同じものでした。そしてこの腕の下半分の方が上半分より長く、そのために、腕は垂直に立てることができました。また、その腕の頂部には、小さいチューブ様の留め金がつけられていました。(下図参照) そこに長い導火線がおさめられ、その先の部分が、留め金からちよっと突き出したようになっており、腕の下半分を後方に引くと、腕の上半分が前方に倒れ、火薬のつめてある点火口まで倒れる仕掛けになっていたのです。このS型の装置はちょうど蛇のような形をしていたところから

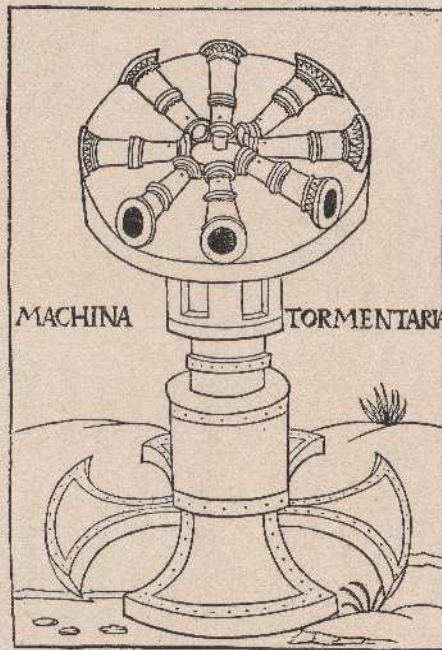
サーベントインと呼ばれるました。これには、すばい点火を可能にするため、点火口が、小さな受け皿のようになっていました。少量の火薬がこの受け皿の上のせられ、それが銃身内部の火薬につながっています。雷管はかなり広い面積 (銅貨の大きさくらい) が露出されていますが、白熱した導火線によって点火されたものなのでしょう。

ただ、初期のこの機構の欠点は、銃が傾いたり、揺れたり、風が吹けば火薬は受け皿から吹きとばされてしまったり、雨が降って受け皿付近に雨滴でもつくと、その噴火口状の受け皿は中心に雨滴を集めてしまいい発射できなくなってしまうような不便さがありました。そこで、装てん、発射には天候条件とか、修練した技術が必要とされていたのです。

一四四〇年から一四七〇年にかけて、これらの点は急速に改良されてゆきました。一世紀前の導火線は、ただヒモをねじっただけのものでしたが、点火が不完全の時は火が消えてしまいました。そこでこの頃になると、ヒモを硝石の溶液の中につけ、それを乾燥させたものが考案されたのです。その結果、火は徐々に、しかも均一にもえてゆくようになり、この方法はそれ以来十七世紀の終りになるまで約二五〇年もの長い間、世界中の軍隊で使用され続けました。これはスローマッチ、あ



①は引金 ②はサーベントインと呼ばれた掛金



どこからでも来いつとた型の回転銃

特集 オートマチック

オートマテイツク・ピストルとは「第一弾が手で装填され、それが発射されると、空ゲースが跳ね出され、自動的に、次のカートリッジが、マガジンから装填され、最初、引金を引いた力を抜かない以上、マガジン内のカートリッジが空になるまで発射し続けるピストル」これが、本来のオートマテイツクピストルの意である。しかしこの機構を拳銃に適用した場合、實際上、非常にまずい点が多く(後述)ほとんど用いられていない。そこで、この改良型ともいえるべき自動連続発射しないオートローディング式ピストル(又は、セミオートマテイツク式ピストル、図解参照)が、実際に幅をきかしており、通常これがオートマテイツク・ピストルと呼ばれ、本来のオートマテイツク



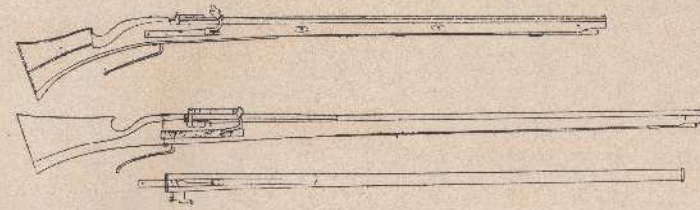
ボルジャルト ピストル

オートマテイツクピストルの歴史

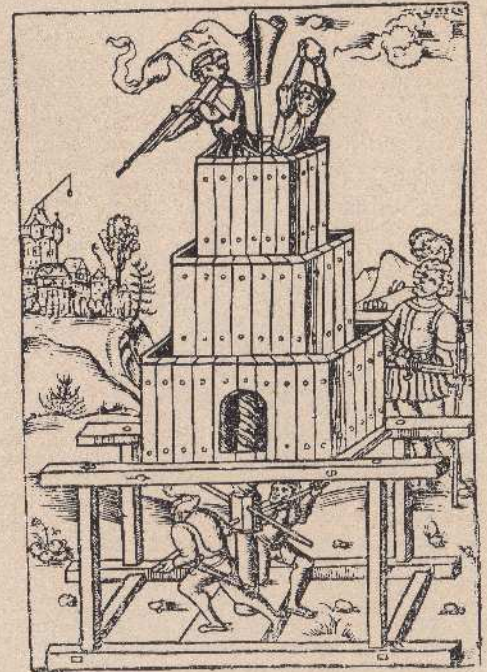
は、フル・オートマテイツク或は、マシーン・ピストルと呼ばれている。ここでは、オートマテイツク拳銃すべてについて述べてみよう。このオート拳銃は機械的に三つに分かれ①ブローバック式、②レコイル式、③ガス圧式があるが、詳細は、ここでは省略し機構の解説の頁にゆずる事にし、さていよいよオートマテイツクの歴史に入ろう。オートマテイツク・ピストルの原理は、実包弾薬、丈夫なカートリッジ、無煙火薬、冶金学の発達等、オートマの基本的な条件ができた。世紀前、すでに知られていた。例えば、イギリスの王侯社交界の機関紙の中に、ロバート・モリーの論文が載っており、すでに、原始的オートマのつくられていたことが知られる。十九世紀後半にオートマが、やっと一応の完成を見たことを考え合せると、それより、二〇〇年前に、無名の発明者が、オートマの原理を書いていることは驚くべきことである。一八六三年をはじめとして、各種のガス式、或は、レコイル式自動ピストルの特許が現われているが、記録に残った成功者は、オーストリア人のシェーンベルガーであった。

このオートマは、現在の機構とは少し異なり、雷管が薬莖の中心部に納められ、発射の瞬間、機構は閉鎖され、薬莖もすっかりつかまえずに、薬莖の中心部にある雷管のみがとび出して、後部の閉鎖機構の頭を叩き、これを解放する。この機構は、その後長くかえりみられなかったが、最近になって再び注目されつつある。その理由は、弾薬の発達により、この機構の銃が十分可能になったからである。オートマの強い蹴出力に十分耐え、又、マガジンの中につき重ねても丈夫で、又、急燃焼し、無煙で安定し正確な弾送りのできる弾丸の発達は、一八八〇年代、大幅に発達した。こうした基礎条件が整って、はじめて、オートマは、大いに発達し得たのである。オートマ設計者の中で、もっとも偉大な人の一人であるオーストリアのアンドレア・シュバルツローズは、一八九三年レコイル式オートマのモデル・ピストルをつくっている。これは、結局本物となつて実結ばなかったが、その後のシュバルツローズ設計の基調になつている。はじめて商業ベースに乗つたオートマ・ピストルは、アメリカで設計されたものである。コネティカット州のフーゴ・ボルジャルトは不格好なピストルを發明したが、これが本当の意味での軍用オートマの起源といえよう。アメリカで製造しても採算のとれない事を悟つた彼は、ドイツに渡り、ルードウィックローウニー社に技術として迎えられ、製

造をはじめた。このピストルは、一八九三年売り出された。これは、グリップの中に、交換可能なボックス・マガジンを用意した最初のオートマである。この装填方式は、後のオートマで盛んに用いられ、後のルガーの先導者ともいべきものであった。ルガーでは、ショート・リコイル式機構を採っている。一八九三年になって、テオドル・ベルグマンは、独特のオートマピストルのシリーズのпатентをとつた。その後一〇年間、彼は各種のものを発展させていった。一八九〇年から九七年にかけて、彼はポケットピストルのシリーズをだした。これらの弾薬はドイツの輸出で、弾薬のカタログの中に一九三〇年頃迄みられるが、ピストル自体は、一九世紀末には、製造されなくなつてゐる。一八九七年ベルギーで作られた、ベルグマンの非常に安いピストルはシンプレックスと呼ばれ、各種の(八七%・六五%ブローニング、〇・三二コルトオートマ用)カートリッジを使用出来る点で、興味を引くものである。同年ベルグマンは、スペインで、もう一種類のピストル、ジャローラ・アントウアを造っている。一八九六年、アメリカのハイラム・マキシムは、素晴らしいオートマを考案したが、彼もイギリスに渡つて製造しなければならなかった。



西暦1600年ごろの照準器の付けられたマッチロック銃



るいはマツチ・コードと呼ばれています。完全に発達したマツチ・ロックは中世紀の後半にあらわれたのですが、それまでのものと比較して非常に効果的な武器としてもはやされました。そうして、その型は、のちの彈導学の基礎になったのでした。こうして、はじめて、本当の意味で、ガン的一般的機構を備えたものが現われたといえるでしょう。そのガンの機構は、以来五百年を経て現在に至る迄、用いられて続けている点非常に興味をおこさせます。そこで

その機構について、やや詳細に述べてみたいと思います。まず、発火受皿は、一四六〇年から一四八〇年頃までの間に、銃身の頂部から側面に移りました。銃身の側部から横に水平方向に突きだし、受け皿の中にある点火口は銃身中の発射室につづいていゝのです。(前頁左下図) ヒンジどめしたスライド・カバーは普通は受け皿の上にかぶさつており、発射直前に、射手が開きます。これは、以前は風や揺れ、傾きによって火薬がとんだ欠点を除き、また一方、受け皿の後部に突つたっている板(チュードル王朝時代の筆者たちによって the slide & fire といふ)が発火の際に射手の目や顔を守るように作られていました。発射装置の仕組みは、単純で、三つの機構部が組合せられています。第一の部分は、シアー(引金)で、引金を引いたとき、発射装置を解放する機構です。第二の部分は、trigger、といわれ現在は、trigger (引き金)と呼ばれています。第三の部分は、hammer (錘)です。これらの機構部は、前頁の左上図に示してあります。そしてこれらの全機構は、一つの長いジョイント・シアー(組合せ引金)と呼ばれるものでしたので、この銃はシアー型マッチロック、あるいはシアー・ロ

ックとして知られています。導火線は、発火時の火花から守られるために、銃身の上端についているチューブの中を通り、発射筒のろしるまでくるとそのチューブの外へ出て台尻に巻きついていきます。この導火線チューブは、時々、博物館を訪れる人に、後部の照準器と間違えられることがあります。事実、照準器にもこれに似たものがありました。照準器だとしてらチューブの一方か、あるいは中心部が鉄製隔膜によって閉じられ、小さな穴があけられているだけですから、とても中に導火線などは通せないのであります。ですから、この場合は、たしかに導火線用のチューブなのです。多分、導火線チューブのついた銃をもっている者たちの多くが、それに小穴をあけた隔膜をつけることによつて、より正確な照準のできることを見つけたし、銃工たちが次第にこの方法を照準に利用しはじめたのでしよう。これが一六〇〇年頃以後に作られたと推定される覗き照準器のもとになったものと思われます。(以下次頁)

ここに会員の皆様の、何故このように、後世銃史上に残るような素晴らしいアイデアをもった人達が次々とアメリカを去って、未知の国々で拳銃をつくらねばならなかったかについて疑問をお持ちではないだろうか。

少々脇道にそれる話だが、興味ある事柄なので一寸触れてみたいと思う。一八五〇年以降、アメリカでは、拳銃に関しては、リヴォルヴアーでなければもてはやされなかった状況にあったので後年ベルギーに於て確固たる地位を築き、小型拳銃王の名を欲しいままにしたジョン・ブローニング、ドイツでルガーの原型をつくったフリーゴット・ホルンジャルト、それにこのハイラム・マキナム等々、拳銃を語る場合外すことのできないこれらの人々が次々とアメリカを去った訳なのである。しかも、これら本國を去って外地で成功した彼らのパテントを再びコルトをはじめ、アメリカの銃砲会社が買っているのは皮肉なことである。

もとに戻って、ハイラム・マキナム(機関銃の元祖で、彼については次号で特集してみたいと思う)の考案したオートマは、アンロック・ブローバック(無反動式吹戻し機構)方式といい、実用に供されたものではなく、サンプルとしてつくったものである。

近代的なオートマ・ピストルの歴史は、一八九八年、七・六三%ミリ

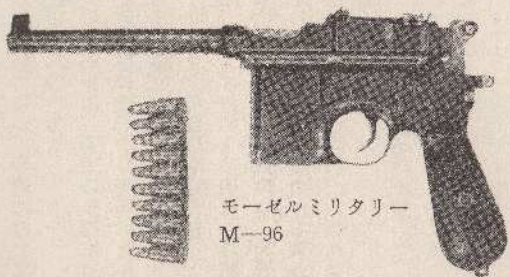
タリー・モーゼルが製作されたことではじまる。このオートマは、一八九六年、パテントをとっている。これは、ホルンジャルトが彼自身のピストル用に使用したカートリッジを使用している。

Deutsche Waffen und Munitionfabriken (D.W.M.) (二〇世紀初頭から二次大戦がおわるまで、ヨーロッパで最大の弾薬製造所)の社史の中に、ホルンジャルトが技術面で、モーゼルピストルに大きな助力を与えていることを書いてあるが、モーゼルは、基本的には、非常に優れたものであり、今日に至るまで、殆んどそのままの機構が用いられている。

イギリスの元首相、ウインストン・チャーチルは、彼のスタン戦記の中で、彼が戦のさ中をイギリスに帰る途中、モーゼル・ピストルを買った、その正確さと、マガジンの容量の大きさとによって、身を守り、数人のフジ・ウジ族を倒しながら、イギリスに帰りついたと書いてある。

アメリカのピストル・デザイナーの中で、もっとも優秀なジョン・ブローニングは、一八九九年、彼の最初のピストルを発表した。

彼も又、彼のピストルの製造のため、ヨーロッパに支援を求めに行かなければならなかった。そして、彼は、一八九八年、ベルギーのパテントをとった。そのピストルは、Fab-



モーゼルミリタリー M-96

rique Nationale d'Arms de Guerre (FN)として世界に有名な国立ゲール武器製造所で製造された。この頃再び新しいポケット・オートマがでたが、これは、ブローニングと、FNが、八%シンプレックスから発展させたカートリッジを使用している。このピストルは、百万丁以上も売れた。一九〇〇年四月一九日、American Rifleman の前身である Shoot and Fishing (雑誌) National Rifle Association の機関紙に、最初のコルト・オートマピストル(一八八八年)と、ブローニング発明を発表している。当



FNブローニング M-1899フルオートマチック

時の編集者は、コルト会社からテスト用にナンパーワンピストルを贈られたと書いていた。その報告は、歴史的にいろいろの点で面白い。報告によると、最初のブローニング・ピストルは、ハンマーなしのフル・オートマチックで、一度引金をひいただけで、マガジンは空になってしまったというのである。ブローニングはそうした設計は意味もなく危険であることがわかってきた。実際にはなにもうてなかったのだ。その反動の連続によって銃口は上をむき射手をうってしまふようなこともしばしばだった。

マガジンは1%秒でからになった。彼等は新しいピストルを試験して秒速五〇〇米にする事に成功し

た。これは普通の〇・三八アーミーリボルヴァーの秒速二五〇米にくらべると非常に早く、浸透力は松板で三〇センチに達した。

その年の六月ブローニングは、編集者に多くの安全そう置を作ったことを報告している。

一九〇一年オーストリアのマングリッヒアーは、新しいオートマを発表したが、それは今日でもヨーロッパおよび南アメリカの一部で使用されている。それはほとんど円柱形の特異なカートリッジを使っているが、正確にはかつてみると円錐台形をしており、これは、取出を容易にするためであった。D.W.M.(ドイツ武器工廠)は一九〇二年ルガーを発表した。

一九〇三年コルトハンマーレス・三二オートマチックピストルが発表された。これは、ハンマーが、かこまれているブローバック式のデザインで、ジョンブローニングの設計によるもの。このピストルを発展させたものが、ブローニングモデル一九一〇で FN(ベルギー兵器廠)によって製造された。これはその後もっとも広く模倣されたり、詐られたりしたデザインである。ベルギー製、ドイツ製、スペイン製と文字通り数百の変種がある。一九〇三年ベルグマンが、ロックトブリーチピストルをベルギーで発表した。これは、ベルグマン・ベヤードの名称で、一九〇八年から一九一〇年にか

けて造られかなり成功した。

英国では最初のウェブリーオートマチックピストルが、一九〇四年発表された。これは、〇・四五五口径、V型リコイルスプリングだった。がうまくいかなかった。これは一九一三年英国海軍で使われたオフィシャル・四五五マークIと混同してはいけない。

一九〇五年のモデルコルト・四五口径と一九〇八年改良型コルトは、以前の〇・三八コルトオートマチックに基いており、勿論ジョンブローニングの設計である。ウェブリーは最初のブローバックオートマチック・三二ポケットモデルを一九〇六年発表した。一方アメリカでは、今年サベージ・四三が発表された。このピストルは一九一〇年口径・三二で改良発表された。この型の最後のモデルは一九一七年発表されている。一九〇六年イタリアでは、グリセンティが発表されたが、それは一九一〇年迄イタリア軍に採用されていた。オーストリア、ハンガリーはロス・ステヤヤー八%を一九〇七年騎馬隊に採用した。これにより七・八年前にパテントをとった武器が初めて大量生産された。

一九〇八年・二五コルトウエストボケットモデルブローニング・ストライカー発射式デザインピストルも同年NFによって Bady Browning の名称で発表が発表された。ウェブリーは一九一〇年・三八

コルト・オートマチックピストルのカートリッジを使用できるオートマを発表した。これはもっとも普及している〇・四五五マークI型のブローバックタイプを使っている。

四五口径・ガバメント・モデルは、一九一一年ブローニングの設計で発表された。これは今迄つくれた軍用ピストルの中でもっとも優れたものであり、アメリカ軍隊で今日でも、ほんのすこしの改造を加えて使用している。同じこの年に、九%強力ステア・ハーンがオーストリアで発表された。これは、一九一五年、一六年にすこし改良された。

ハンガリーのロング・レコイル・三二ブローバックタイプは、一九一二年発売された。これは、〇・三二オートマ・カートリッジ発射用に特殊ロック・タイプを使用している。同年、S&Wは、〇・三五オートマをベルギー製ビーバーをもとにしてつくった。

その後、一九一五年イタリアのベレッタ、その他のポケットピストルの要種の他は、一九一八年レミントン・三八オートマ・ピストルが出て、ヘジテーション・ロック・ブリーチを採用するまでは、ほとんどめばしい発達はみられなかった。

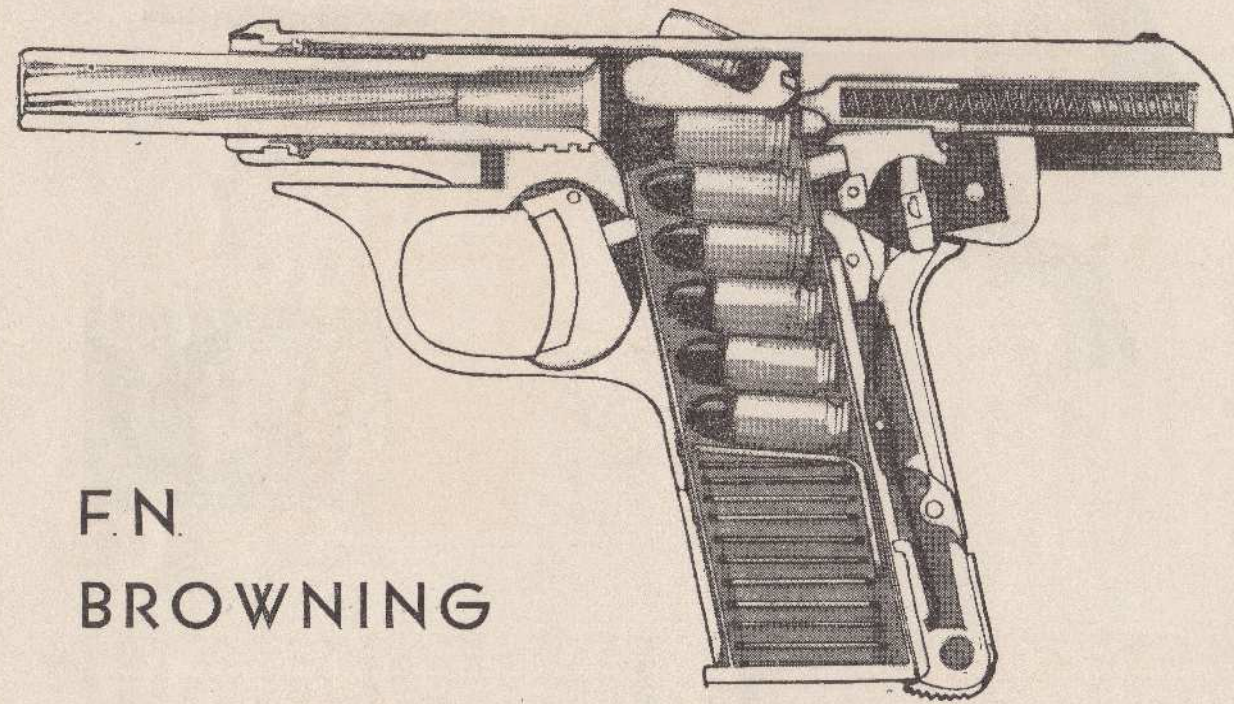
続く、一〇年間にはオートマの発達は、スペインに限られた。スペインでは、数十のメーカーが数百の商標で製品をだし、輸出した。しかし、実際には、その変種のほ

とんどは、イミテーションであった。スペインでこの期の真の発達といえる分野は、安価なブローバック・ピストルで強力なカートリッジを発売させる技術を生み出したことで、以前は、このカートリッジを発売させるためには、もっと高価な、ロック・ブリーチが必要だと信じられていたものである。こうして九%ベヤード、九%パラベリウチを発売させるのに、ブローバックを使用したスペインの技術の発達には、学ぶべきところがある。

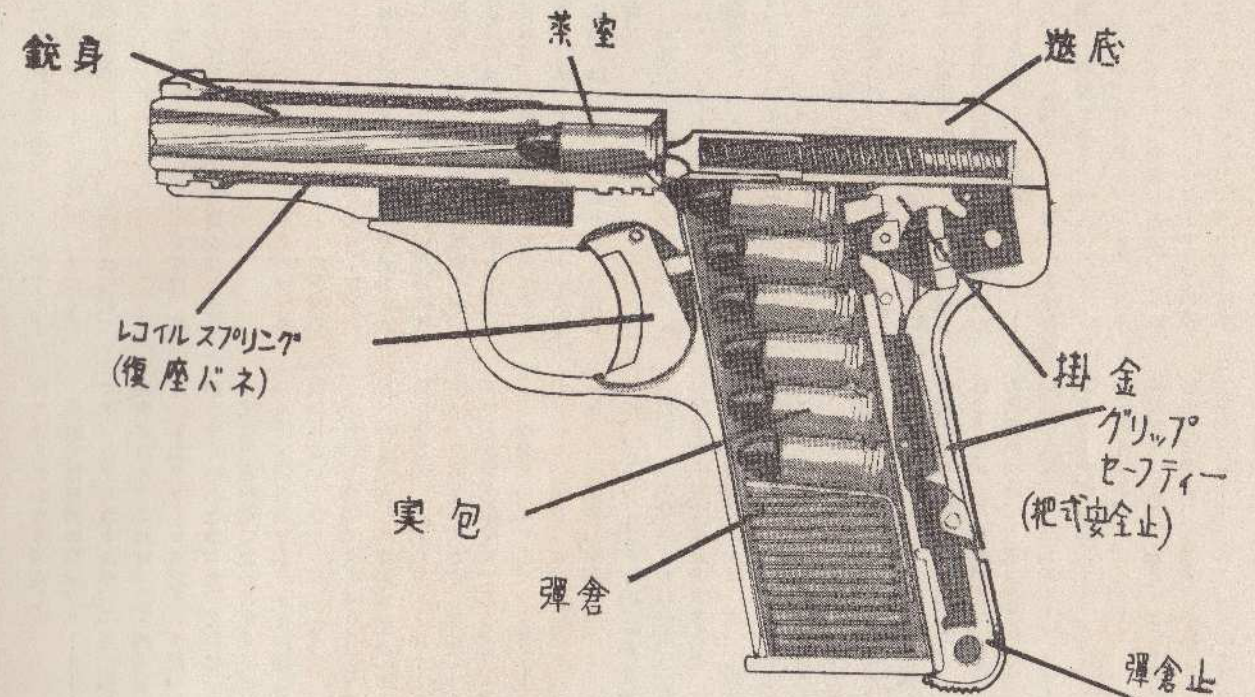
一九二六年までに、チェッコはスロヴァキアドイツ設計をする製造工場をつくった。一九二六年、ステア・タイプの回転式銃身ロック・ピストル三八口径をつくったが、これは、モーゼルにおけるロック機構を使っている。これは、後に、チェッコ軍の軍用サイド・アームとして採用された。

一九二八年ブローバック・タイプ軍用ミリタリー・モデルが「ル・フランシス」の名称で、はじめてフランスで売られた。これは、簡単な、ダブル・アクション機構と、安全装置を備えていた。それから、今日に至るまでオートマチックピストルは、軍用に、クリミナルモデルにとその使用範囲を広めて行つたのである。

(オートマチック)



F.N. BROWNING



今回は、オートマチック(オートローディング)の機構を、解説致します。中でも、一番簡単なブローニング(吹き返し式)タイプのブローニング(オートマチック)の基本となるもので、まずグリップ下方に有る弾倉止を後に押し、弾倉(マガジン)を下方へ抜き出し、上方装填口より一発ずつ装填する。

遊底(スライド)を後方に引くと、遊底下部で圧えられていた最上部の突包は、弾倉下部のスプリングに押されて、弾倉上部より半分露れを出す。そして、遊底を引いている手を放すと、銃身の回りにある復座バネ(レコイルスプリング)に依つて前進し、この時、遊底の前面が、弾倉最上部の突包を押し、薬室へ送り込む。この時撃針(ハンマー)のない撃針のみがメインスプリングに依つて前進するものを、ストライカーピンと呼ぶ。掛金(シエール)に依つて後方に止められている、これで装弾が終了準備が完了すると、掛金が押され、爪から離れた撃針(ストライカーピン)は、メインスプリングの力に依つて前進し、先の説いた部分が突包の底部中心に有る雷管(キヤツプ)を打ち、薬室内の火薬に点火されて、その圧力に依り弾頭が銃身に食い込んで回転しながら発射される。

この時の薬室内に掛つたガス圧は、弾頭を前方に飛ばせると同時に、同じ圧力が後方へも掛り、遊底を後方へ押し下げる。この時、排灰子(エジェクター)は薬室の回りに付けられた溝に掛つていて、薬室の底部をしつかりつかんだままで後退すると、撃針がつき出て、薬室を左側排灰口より銃外へ排出する。そこで後退力はゼロとなり、レコイルスプリングの力で前進するので有るが、

この時引金を引いたままだと遊底が前進する時撃針が一掃に前進するので、それを防ぐために復座掛金(ダブルシエール)が付けられて、これに依つて撃針は止められて、遊底だけが前進する(このシエールをシングルと又、開放することに依り、フルオートマチックとなるが、フルオートマチックと、オートローディングの違いはそれだけなので古くなるようにシエールの爪がへり、連続発射する事が有る)そして新しい突包が再び薬室に送り込まれ撃発状態と成る。

二発目からは引金を引くだけで発射出来る。オートマチックは、リヴオルバーと違い、突包を装填した弾倉を用意する事に依り、何発でも撃つことが出来る利点がある反面、構造が複雑なため、故障が起りやすく、薬室の火薬量を間違えると、遊底の後退不足を起したり、火薬量が多すぎると、遊底が破れんしたりするので、リヴオルバーの様に、使用弾の融通性はない。そして、時には空薬莖が抜け切らない内に新突包を送り込んでしまいがちな事を起す事もある。しかし、この様な事故は近年、技術推進の向上と、製品均一性に依つて皆無と言つてもよい。この事から考えて、オートマチックピストルは、性能の向上よりも精度の向上に重点を置いて製造されたので、最近、特に二次大戦後は、とみにその信頼性を高めていく。

二次大戦も終結し、平和な今日となつては、拳銃も実用だけではメーカも成り立たず、性能の向上と安全性、使いやすさ、不必要な重量の軽減、バランスの良さに重点を置き、競用に、狩り用に、スポーツモデルとして、その販路を広めていく。これはリヴオルバーや、小銃にも言える事である。

次にオートマチックピストルの機構とは大別して次の三種類が有る。

一、ブローニング方式(吹き返しも

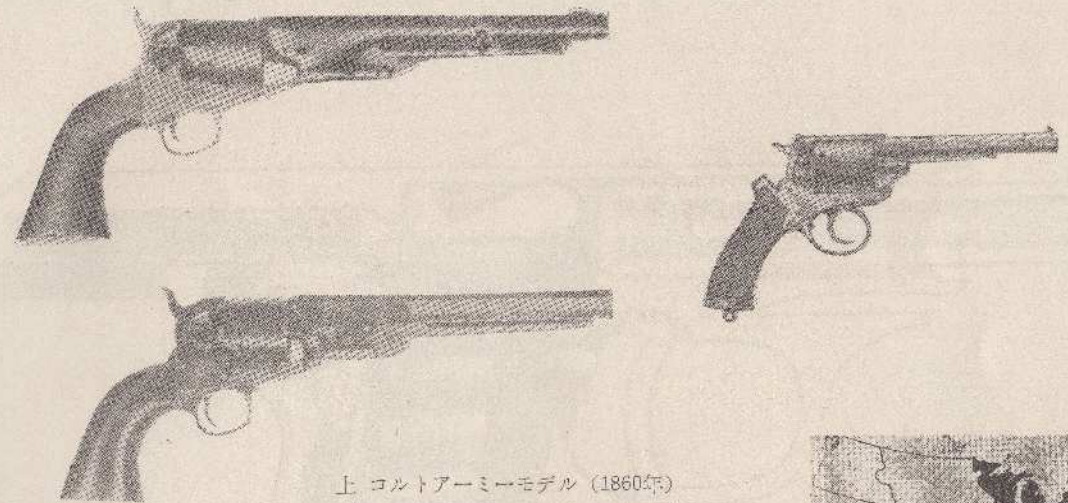
式)これは今回解説したもの。

二、レコイル式(銃身後座)これは、シヨルト、コイルと、フルレコイルとが有り、シヨルト、コイル方式は、ジャーマン、ルガーや、日本の南部式の様に銃身がわずかに後退して、それから遊底が開く。これは前記のアンブローバック方式が、小口径のものに使用されるのに対して、これは大口徑のものに使用され、発射時には、機関部と遊底が曲り(ロツク)によつて止められていて、わずかに後退し始めてロツクが放れて、始めて遊底が後退する。この機構は大口徑弾を发射した場合に、そのガス圧にたえるため、このロツクがないとガス圧が大きいため早期開放を起してしまうのでこの方式を使つていく。

フルレコイルは、銃身が全後退行程を後退するもので銃身もどる時に空薬を排出、突包を薬室に送り込むもので有るが、この方式はあまり実用されていない。この方式は、方々の国で研究されているが、現在は試験的に作られるのみで実際に使用された例は少ないが特長としてはダブルリコイルを起さない。

ガスレコイル(発射ガス圧利用式)これは、オートマチック機構の内、最も確実な方式で有つて、発射の際の銃腔内のガス圧の一部を抜き取り、ピストンに依つて遊底を後退させるもので有るが、拳銃に使用する場合は、高度な技術を要求されるので、モデルでも使用されたが、一般にはあまり使用されておらず、主に、自動小銃や、軽機関銃(サブマシンガン)等に使用されている。

オートマチックピストルの場合は、主にアンブローバック方式と、ブローバック方式の中でも、シヨルトレコイル方式が使用されており、その他の機構はあまり使用されていない。又、特に使う必要がないのになかるうか。今回はアンブローバックに重点を置いて解説したが、この他の方式は、追つて特集で解説していくつもりだ。



上 コルトアーミーモデル (1860年)
下 コルトネイビーモデル (1851年)
右上 アダムス リボルバー
右 その当時のアメリカ地図



前回、コルトのイギリス進出について触れておいたが、今回は、この地に於けるコルトの活躍から入って行く。

一八五三年一月、ロンドン、テムズ川沿いのピムリコにコルトロンドン工場が開設された。そこでは、一八四九年型ボケット・モデル及び、一八五一年型ネーヴィー・モデルを製造した。この結果一週間六〇〇丁製造ペースをはるかに越えた大量の注文が殺到し、大成功を博したのだ。当時の彼の工場の模様を示す話が多いが、小説家として有名な、チャールズ・ディッケンズも、一八五四年春、この工場を訪れ、五月二十七日、彼の発行している雑誌「HOUSEHOLD WORDS」の中で、コルト工場に於ける作業の能率の高さ、製品の仕上げの素晴らしさ、作業環境、賃金のよさ、作業時間の短縮(一日、十二時間)当時の労働者は、十六時間労働は、平気で強いられていたのである)などをほめた。近代化された彼の工場の経営振りがうかがわれよう。コルトのこうした盛況に対して、イギリスでは、ウェブレイ、アダムス・デイーン型レヴolver(ファイリッパ・ウェブレイ及び、ロバート・アダムスによる特許)でコルトに挑戦してきた。この二種のダブル・アクションのピストルと、コルトのシングル・アクションピストルとの相異について一言触れてみよう。大

体、ダブル・アクションとは、引金を引けばハンマーがコックされ、更に引金を引けば発射が行われるのに対して、シングル・アクションは、ハンマーのコックは親指で行い、発射は、引金を引いて行なうという相異がある。

その他に、分解掃除の場合、銃庫にとりはずしのできる点はシングル・アクションのコルトが優っていた。その上、大部分のアダムス型、及び多くのウェブレイ型は、ソリッド・フレーム(単体)だった。こうした両者の長所、欠点をめぐって、軍隊でも、技術家の間でも、コルトか英式か、いずれを採用すべきかという激しい議論がまき起った。そして、その議論は、ついに、一八五五年新聞紙上を賑わすに至った。コルト・リヴォルヴァーの特徴は、前述の他に部品の完全な交換可能性と、長距離射撃の正確さであり、また欠点としては口径が比較的小さく(〇・三六インチ、〇・三一インチ)発射時の反動を止める力が弱く、締め長がゆるみがちである点や、弾丸キャップの予備から、ピストルがうまく動かないなどであった。

これに対して、アダムス型リヴォルヴァーは、反動をゆるめる力が強く、コルト型より耐久性が優れ、ダブル・アクション・システムをとっているため、すばやい発射ができ、弾丸キャップもうまくできていて長所はあったが、一方、部品は交換不



能で、長距離射撃の正確さでおとっていた。

こうして、議論は結局、使用する状況次第で適した方を使え、という一般的な結論に落ちついた。コルトは、アメリカのプロンティアー達にとって最も適したものだといえた。というのはピストル製造者の少ない西部の辺境地方では、交換可能性が絶対に必要であり、射撃の正確さが要求される地方では、コルトが圧倒的な強みを発揮したのは当然であろう。一方アダムス型は正確さ以上にすぐ使えることを要求する軍務とか、短距離戦には優れた威力を発揮した。

結局、一八五五年、イギリス陸軍はアダムス型ピストルを採用することになり、コルト・アーミー・モデルは発達しなかった。こうした理由や、海外に工場を持たなくても、アメリカ国内は勿論海外の需要にも十分応じられることなどのため、ピムリコ工場は、閉鎖され、製造は本回のハードフォード工場のみで行なわれるに至り、以後、すべてのコルトの製品はここからでることになったのである。

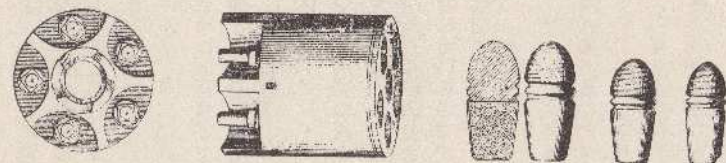
ここで、再び話をアメリカに戻して、メキシコ戦争後の西部に於ける彼の活躍に目を転じよう。

当時のアメリカは、開拓者たちが西部への大移住をはじめだしており、彼らは、コルトの六連発銃が、インディアン達とか、盗賊達相手の

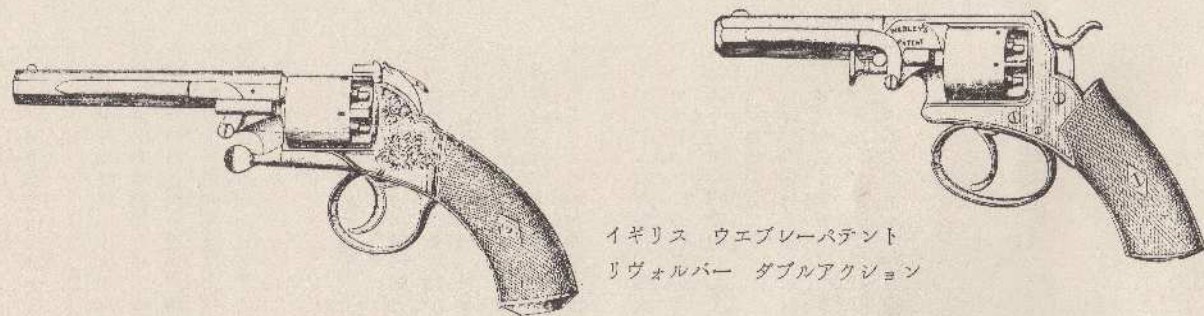
戦いに、最適であることを見出して

いた。ミシシッピ川の西方の広大な領域に網の目のように広がっている馬車は、コルト六連発銃の助けを借りて、無慈悲なやり方で領域を拡大していった。馬車にのっている連中は、すべてこの六連発銃をもっておりこれは、西部の戦いでは、ライフルや、カービン銃より、はるかにすぐれた効力を発揮した。急行駅馬車(PONY EXPRESS)の乗員たちは、最初、カービンや、ライフルで武装していたのであるが、次第に、これを棄て、コルトの軽量型ウェルズ・ファアゴ(Wells Fargo)を持つようになった。

こうした状況のもとで、一八六一年、アメリカは南北戦争に突入り、同じ年に、コルトも、余りにも精力的な短かい生涯を過労によって終えることになった。けれども、彼の残した偉大な形見、コルト・リヴォルヴァーと、製造工場は、南北戦争中も縦横の活躍を続けたのである。

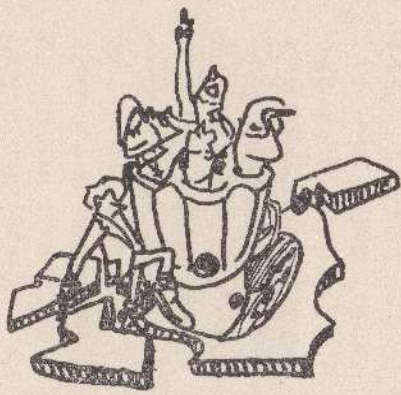


コルトパーカッション用シリンダーとその使用弾(断面に注意)



イギリス ウェブレイパテント
リヴォルバー ダブルアクション

◇前略、私共の息子は今年十五才に相成ります。過日貴殿よりの小包が到着致したので開封したところ、ピストルが入っておりました。早速、息子の目にふれる前に、土中深くうめて参りました。貴殿は何の所存であのような危険な品を、



中学三年の少年に送付するのか、理解致しかねます。今後、重ねての希望、或は他人の名を使つての申込などにも、いっさい送付を拒絶します。少年の不良化が云々されている今日、それを防止しないばかりか、かえつて助成するような大人のいることに驚くばかりです。もし当方の要求が無視され、再び送付されてくるようなら、当方にも考えがあらま

す。重ねて貴殿の反省をうながします。(広島県・Sの母)
◇僕はMGC協会発足当時から会員です。毎回の会報を何より楽しみにしています。先日、やっと前から欲しかったグレート・ウェスタンを送ってもらいました。あまり嬉しかったので、しばらく離さずにいじりまわしています。父がそれを見ていて、戦争中に拳銃を使つたときの話や、拳銃の怖しさを話してくれました。拳銃の話なら何でも聞きたい時だったので、とても為になりました。それから父と一緒に会報を参考にしてはいろいろ研究しています。おかげでガンというものがどうやらわかりかけてきたような気がしま

す。(兵庫県 山田忠夫 18才)
★先日当協会に、このようなまるで対照的な二つの投書が舞いこみました。われわれガンマニアにとっては非常に重大なことがらなので御紹介すると共に、協会としての意見をのべてさせていただきます。
当協会は、コレクシヨンガンの顔布と同時に、ガンに対する正しい知識を得ていただくことを主な目的にしております。一応大人の、コレク

せることについて懸命に努力しております。このことは毎月の会報をご覧になれば、おそらく理解していただけることと信じております。
そうした意味から、広島S君のお母さんは、重大な誤解をなさっているように思えます。S君が当協会の意図と逆の方向に走らないように切望しています。
◇先日、モーゼル・マシーンピストルについて不明の点を問い合わせたのですが、あれから一ヶ月近くなるのに全然返事がありません。事務員は何をしているのですか、もっと会員に親切にして下さい。(静岡田中吉郎)
★たしかにお申越しの通り、返信の遅れていることは申訳なく思っています。しかしながら、なにが一ヶ月二千通を超える質問、問合せがありまので、とても直ぐにお返事を出しかねる実状なのです。それを緩和するために社内報でお知らせしてありますが、タブロイド版二頁の新聞を月一回、発行する予定です。一ヶ月の御質問をまとめて、紙面によって答えさせていただきますから協会の実状を御明察のうえ、御理解いただきたいと思います。
なおその他にも諸事山積しておりますが、人手不足で思うにまかせません。どなたか、ガンに興味をもち協会の趣旨に賛同して御協力下さる方がありましたら、履歴書をお送り下さるようお願いいたします。



☆タブロイド版 新聞発行のお知らせ

当協会発足以来、全国各地から真面目な会員申込みが殺到、現在では三千名以上のぼりましました。毎月一回のMGC会報を唯一の知識交流機関として参りましたが、今回新しい企画のタブロイド版二頁の新聞を、会報とは別に発行します。内容は時宜に応じたガンの種類、会員相互の交流紹介、モデルガン蒐集の方法、輸入品速報、会員の方からの質問と解答など、森り沢山の「ガン新聞」です。ご期待下さい。第一号の発行は六月上旬の予定です。

☆サンブルの新着

会員の皆さまのご要望に応じて、世界の代表的モデルガンの輸入に最大限の努力をして参りましたが、なにごん諸状態の悪化で思うにまかせませんでした。しかしこのたび、よろやく七・八種類の輸入の見通しが

つきましましたのでお知らせします。詳細は六月中旬発送予定の総合カタログ版2に掲載いたします。なお印刷部数、会員名簿の整備の都合上、通日ご通知いたしました会費送付票をお送りいただいた方のみお送りいたしますからあらかじめ御了承下さい。

折角お送りしても、受取人不明で返送されてくることもありまので、お申込の折は特に住所、氏名、及びアパート名、××方名も銘記して下さるようお願いいたします。

☆画期的なガン研究書入荷
日本では拳銃の所持が禁止されている関係上、ガンに対する詳細な資料に乏しく、ガンマニアの誰もが切望している現状です。当協会としても、こうした不満を解決し、正しい知識をもつていただけるよう「資料」の開拓に努力しております。このたびアメリカから、全世界の軍隊で用いられている非公開のガン資料を詳細に盛り込んだ研究書の輸入に成功いたしました。現在入手出来る唯一の文獻とも称されるもので、写真も豊富に掲載されております。ご希望の方は至急、当協会までお申込み下さい。

☆MG C最近最大のオメガタは、レミントン・デリンジャーこと山本兵衛氏の結婚。新婚一週間の会報×切日には、ペアで敬夜というムツマツサ。昔の名銃は必ず金・銀・ベアで作られていたというところを知っているのは、さすが歴史担当だけのことはある。

☆製品発送日の予告
毎度お詫びしておりますが、全国からのコレクシヨンガンお申込みが殺到し、それに加えて郵便事情の悪化もあり、お申込みをいたしてから発送までに時間がかかり、会員各位に大変不安をお与えしております。今後このようなことのないよう留意すると共に、お申込みをいただくと同時に、製品発送予定日をこ

☆今回から編集に新加入の不久間蔵氏、ゆですきた那さながらのハイドボイルド。カタゆでの卵は子供には消化が悪いというが、まったくその通り、海に千年、山に千年、里に千年、三千年のコウラをべた、コンバージョン上下二連銃弾銃。

通知することいたしました。また

近く、会報に本格的拳銃小説を連載する。

前号で予告いたしましたように、今号からいよいよ、大中の増ページ「モーゼル」が非常に好評でしたので、今回は特に「世界の拳銃を巡って・ドイツ編・ルガー」のオートマチックの二本立て特集号にしてみました。いかがでしたか。

ただ残念なのは、そのために紙面をさかれ、「有名コレクター訪問」と「映画テレビ欄」を割愛せざるを得ませんでした。そのかわり、つねづね会員のみなさんから御要望をいただいていたように、写真に対して、大きな、しかも豊富なスペースを取ったことで御満足いただけるものと思っております。

編集後記

また今号から、他誌では見られない当会報独自の読物、「モデルガンについて」を掲載いたします。これは当MGC協会でも扱っておりますコレクシヨンガンを中心に、実物のガンに比べて扱っている点、似ていない点などをわかりやすく解説し、コレクシヨンをする方々の手引きとするものです。是非参考にして下さい。尚ワルサーP38等オートマ類は総合カタログ版2にて六月末に配布致します。御期待下さい。

☆お知らせ

かねてから、会員の皆様と当MGC協会との親睦を図るための会合を企画して参りましたが、来る七月十二日、拳銃百科(大蔵春彦監修・久保書店刊行)の出版記念にあわせ左記により会合を開催するはこびになりました。

ガンブームの折から、真面目なガンコレクシヨンについて、各方面の権威ある方々が多数参会して、お話を下さる予定です。

当日は、当MGC協会の製品展示や、皆様からの御質問にお答えするなど、幅広いプランを用意してあります。河卒、ふるって御参集下さい。

日時 七月十二日(水) 午後五時
場所 東京都港区虎ノ門日消ホール

郵電・地下鉄虎の門下車一分国電新橋下車八分
なお、詳細は、次号で発表し、お手もとにおとどけいたします。